

学校だより

1月号

やさしい子 たくましい子 考える子



黒門

発行日 令和7年1月8日
発行者 台東区立黒門小学校
校長 飯塚 雅之

ふるさと

校長 飯塚 雅之

明けましておめでとうございます。2025年の幕開けです。本年もよろしくお願いいたします。

去年は元日に能登半島地震が発生し、2日に、旅客機と海保機が滑走路で衝突するという大事故が起きました。9月には豪雨により甚大な被害を受けた地域もありました。今年は災害や事故が起こらないよう願うばかりです。

厳しい寒さが続いていますが、ふと正門にある桜の枝を見ると花芽が少しずつ膨らんできています。春に一步一步近付いていることに気付かされました。

ふるさと

育ったところは 必ずしも家庭ではない
心を育てられたところが 家庭である
学んだところ 必ずしも母校ではない
よき師よき友にめぐり会えたところが 学校である
生まれたところ 必ずしも故郷ではない
心をとどめたところが 故郷である (作者不明)



年頭に改めて学校という存在の意味について考えました。

時の流れは絶え間なく、目に見える区切りがありません。1年を区切り心を新たにする正月という風習は「1年の計は元旦にあり」と原点に返り、自分自身を見つめ年頭の誓いを立てるとい、とても意味深いものと感じます。

子供たちは今後、住み慣れた街や日本を離れて活躍すること多いと思います。子供たちには、日本の伝統や文化を理解し身に付け、さらに他国の文化や伝統も尊重できる国際人として成長してほしいと思っています。

その時に心を温め、心を支えてくれるのは思い出ではないでしょうか。親や兄弟のこと、友達のこと、教師や母校のこと、そして育った街の風景を心の支えにしながら、強くたくましく生きていけるものと思います。

学校・家庭・地域がそれぞれの立場で子育ての役割を相応に分担し、社会全体で優しく時には厳しく子供の心を育むことを通して、家庭も地域も学校も子供たち一人一人の「ふるさと」として心に宿ります。

本校では、育ての会をはじめ同窓会、地域の皆様と多くの学校の応援団の皆様が「子供たちのために」と様々な場面で積極的に力添えをいただいています。そのような皆様の姿一つ一つが、子供たちの心に深く「ふるさと」を刻み込んでいると確信しております。

新しい年の幕開けに際し、心を新たに引き締め、子供たちにとって「ふるさと」といえる母校となるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。